

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所 新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原6-7-1
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp



次の御論文は、明主様(当協会の教祖)が、昭和二十五年に発表されたものであります。世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

新人たれ

人は常に進歩向上を心がけねばならない。特に信仰者にしてしかりである。ところが世間、宗教や信仰などを口にする、どうも古臭く思われたり、旧人扱いされたりする。なる程在来の宗教信者は、そういう傾きがあるのは否めないが、本教信者に限っては全然反対である。否、反対たるべく心がけねばならない。

まず何よりも大自然を見るがいい。大自然においては一瞬の休みもなく、新しく新しくと不断の進歩向上を続けている。見よ、人間の数は年々増える。地球上の土地も年々開発される。交通機関も、建造物も機械も、一つとして退嬰するものはない。草木も木も天に向かって伸びつつある。一本といえども下を向いているものはない。このように森羅万象ことごとく進歩向上しつつある実態をみて、人間といえどもそれに倣うべきが真理である。

この意味において、私といえども去年より今年、今月より来月というように、あくまで進歩向上、心の弛まないよう努めている。といつてもただ物質的の事業や職業や地位が向上するというそれだけでは、根底のない浮遊的のものである。根なし草である。どうしても魂の進歩向上でなくてはならない。要するに人格の向上である。この心掛けを持って一

歩ずつ気長に、自己を積み上げてゆくのである。無論焦ってはならない。ほんの僅かずつでもいい。長い歳月によれば必ず立派な人間になる。否、そのように実行せんとする心がけ、それだけでもう既に立派な人間になっている。そのようにすれば、世間からは信用を受け、万事巧くゆき、幸福者となる事は請合である。

こういう言い方をすると、現代青年などは何だか旧道徳論を聞くようで、陳腐に思うかも知れないが、実は陳腐どころではない。これが出来れば本当の新人である。このような点を規準として私は多くの人を見ると、古臭く見えて仕方がない。何等進歩がなく、相変らずの考え方や話で、どこにも変り栄えが見出せない。だからこういう人に会っても少しの興味もわかない。話し合ってみても世間話以外何物もない。宗教も政治も哲学も、芸術などの匂すらない。世間の大部分はこういう人がほとんどであるが、それも敢えて咎める気はないが、少なくとも本教の信者だけは、そういう旧人型は感心しないし、又そういう人はあまりないようだ。本教は知らるる如く、世界の転換期に際し、全人類救済のために、誤れる文化に目覚めさせ、理想的新世界を造るに於ける以上、あくまで新人たる事を、心がけねばならない。私がいつもいう、二十一世紀的文化人にならなくてははいけないと言うのはその意味である。

浄霊体験記 2ページ 3ページ

- 入会して六十二年親子代々救われる…
- 見失った人生から安心と満たされた日々…
- 痛みから解放され幸せな日々…

腕が上がらない…

浄霊で救われ 感謝と感動…



白木原支部 濱崎富美子(58)

私が浄霊を知ったのは、源田美津子さん(会員)がきっかけでした。平成三年六月、二十四歳で結婚したのを機に福岡県へ引っ越しました。その時、夫の会社に訪問されて

いた保険屋の方が源田さんで、新健康協会のことや浄霊のことを教えてくれました。私は、そういう健康法もあるのか…とお話を聞いていましたが、それから二、三ヵ月経った頃、急に左腕が上がらなくなりました。私はどうしようか…と悩んでいた時に、浄霊のことを思い出し、源田さんをお願いして支部に連れて行ってもらいました。

この時に初めて浄霊を体験したのですが、一度の浄霊であんなに辛かった左腕がスツと楽になったのです。とても驚くと共に、すごく嬉しかったことを今でも覚えています。浄霊は間違いない…と確信した私は、その時から浄霊を続けるようになりました。

それから一年後、出産のため実家へ帰ることにしましたので、自分でも浄霊が出来るように、平成四年十二月二十四日、二十五歳で入会しました。おかげ様でお腹の子も順調に育ち、平成五年一月十八日に出産を迎えました。この時も奇跡を頂きました。

子どもの頭が大きかったため難産でしたが、それでも無事に生まれてきてくれました。感謝と感動でいっぱいでした。

これも明主様から頂けた奇跡と思い、心より感謝申し上げます。

(福岡県大野城市)

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

腎臓部の激痛

入会して六十三年
親子代々救われる…

芦屋支部
宮崎敏臣 (77)



私が浄霊を知ったのは、私がまだ幼い頃でした。これは母から聞いた話ですが、当時、私を始め兄弟三人共病身で、あの子が悪くなければ、この子が悪い…という状態が続いていたそうです。また、母は、母の姉妹が病気に罹っていたこともあり、いつかは自分も大病に罹ってしまうのではないだろうか…と不安と恐怖があったそうです。

昭和二十七年一月、当時十歳だった私の姉が熱を出したそうで、注射をしたのですが良くならず、どうしようもない状態になったそうです。すぐに大きな病院で検査をすると「肺門リンパ

腺炎」と診断されたので、服薬と絶対安静が続けていたのですが、寝たきりとなり、食事も摂れずいたため顔色も悪く、痩せていくばかりだったそうです。

すると、その年の八月頃、当時住んでいた借家の大家さんから「新健康協会というところで浄霊を受けると体の具合が良くなっているそうですよ…一緒に芦屋支部へ行きましょう…」と言われたので、早速浄霊を受けに行くようになりました。すると、姉は段々元気が出てきて顔色も良くなり、熱も下がったそうです。

それからは時々支部に行き浄霊を受けようになりまし。浄霊はとてもすばらしい…ということを知った母は、昭和二十八年三月に入会しました。すると家族皆、浄霊を受けるようになり、元気になりました。母自身が恐れていた病気への心配もなくなったそうです。

その後、私も昭和三十七年三月二十六日、中学二年生の時に入会し、現在も浄霊を続けています。

激痛がなくなった…

これは、私が体験した話ですが、私は今までに二回、尿路結石のような状態になったことがありました。その時も浄霊で救われました。

一回目は、平成三年十二月初め頃、私が四十三歳の時です。

夜明け前の午前四時頃から急に左の腎臓部が痛み出しました。その痛みはとてもひどく、寝ておられない程の激痛でしたので、起き上がり、座った状態で妻から浄霊を受けました。すると左の腎臓部から石のようなものが輸尿

管の中を膀胱へと移動するように、痛みもそれに伴っていました。さらに吐き気と痛みがひどくなって来て、冷や汗も出てきましたので、明主様に御守護のお願いをさせて頂きました。おかげ様で、その後も続けて浄霊を受けていると、少しずつ痛みが軽くなっていき、午前七時頃には大分良くなり、一時間後の午前八時頃には体を動かせるようになりました。お手洗いにいくと、真っ赤な血尿が出ましたが、その時に石のようなものも一緒に出たのでしよう、その後は痛みもなくなりまし。本当に有難い…と明主様に心から感謝申し上げます。

二回目は、平成十年六月、私が五十歳の時です。この時は一回目の時と反対で、右の腎臓部が痛みました。

六月二十二日頃から右の腎臓部が辛いな…と思っていたら、七年前の時と同じような痛みが始まり、右の腎臓部と盲腸の辺りが、何かに圧迫されたかのように痛んできました。それも前回と同じように腎臓部から輸尿管の中を石が移動するように思えて、痛みもそれと同時に段々ひどくなりました。その時も吐き気を伴い殆んど寝られない状態になりました。そして痛みは段々ひどくなり、三、四時間痛むと三十分位は落ち着くという状態を繰り返しました。

このような状態が四日間続き、痛みと吐き気が激しい状態でしたが、浄霊を受けていると痛みが軽くなっていきまし。すると今度は盲腸の辺りが痛み出し、お腹の中で風船が膨らんで、それが破裂するのではないだろうかという感じになりましたが、浄霊を続けていましたので、その膨らみは少しずつ自然に小さくなりました。おかげ様で、五日目頃にはだんだん

幸せに生活しています…

このように体も動かせるようになり、本当に浄霊は素晴らしくて、有難いと思えました。この体験談の他にも、日々様々なことで救われ、私だけでなく家族皆救われております。今では子ども達だけでなく、孫まで幸せに生活することが出ています。私の母が浄霊に出会ったことで、親子四代に亘って浄霊で救われていたということに、感謝しても感謝しきれません。

世の中の一人でも多くの方に、この浄霊の有難さを伝えていきたいと思っております。明主様、誠に有難うございました。(福岡県遠賀郡)

浄霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。

まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄化作用

人間には体内の毒素 (= 不純物) を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。



台湾

食欲不振・鼻炎・風邪

見失った人生から
安心と満たされた日々へ：

高雄支部
陳美蓉 (60)



二〇〇一年八月、三十七歳だった私は、病弱な子ども三人を連れて、初めて「新健康協会」を訪れました。今思えば、この行動によって私の人生に初めて希望の光が射し込み、私自身と子ども達が苦痛と絶望から救われるきっかけとなったのです。

当時、私は三人の子ども達と頻りに病院へ通っていました。子ども達は湿疹が出るほど薬を飲んだり、漢方薬を飲んだりしていましたので、皆顔色が悪く痩せていました。あらゆる健康法や大手ブランドの栄養食品なども試していましたが、まったく効果がありませんでした。そんな時に出会ったのが、同級生だった陳盈君さんでした。陳さんは私の状況を知り、浄霊を教えてくださいました。

当時九歳だった長男は、生まれた時に黄疸が出て入院した時からミルクを飲まず、食欲不振が続いていました。そのため痩せていて、背も伸びず、首には目立つ硬い塊がありました。

浄霊を受け始めてから風邪を何度も引いたのですが、風邪によって熱が出て、体内の毒素が鼻水等になって出てくることで、ある日突然、首の固まりが消えていました。本当に驚きました。そしてこれが「浄化作用」ということを知ることが出来ました。

その後は中学二年生の時に、学校で友達と遊んでいて左の腕を骨折したので病院に行き、ギプスで固定してもらいました。しかし、レントゲンを見たら骨が正しく接合しておらず、私ほとても心配になりました。すると支部の方から「しっかりと浄霊を受けたら良いですよ」と励まされ、息子を支部へ連れて行き、回数多く浄霊を受けました。すると、骨は完全に治り、全く問題はありませんでした。本当に浄霊は素晴らしいと、浄霊の偉大さに心から感謝申し上げました。

長女は当時七歳で、幼い頃からアレルギー性鼻炎が続いていました。そのため一日中鼻水が出ていました。するとある日の朝、右の鼻翼部分がなくなつて、透明な鼻水が絶え間なく流れる状態になっていました。七歳の子に整形手術をしなくてはならないのだろうか。こんな小さな子にそんな苦しみを与えることが本当に耐えられない。という思いでした。そんな思いもあって、しばらく浄霊を続けていましたら、鼻翼は自然と快復し、健康で美しい娘になりました。本当に感謝で一杯になりました。次女は当時五歳でした。ある日風邪を引いて、高熱が出て、咳もひどく、痰もたくさん出ていました。それでも浄霊を受けると、急に食欲が増し、顔

色も良くなり、短期間で身長が六〜七センチも伸びました。

次女は生まれて一カ月経たない頃にも風邪を引き、咳がひどく、痰を多く出していたのですが、当時は病院の注射一本で症状を抑えていました。浄霊が有難いのは、そのような薬に頼ることなく、体がどんどん元気になっていったことです。本当に感謝しています。

私の人生は一変した：

初めて浄霊を受けた時、私は不安と悩みで顔が曇っていました。支部の先生が「病気のさまざまな症状は、体が毒素を排出出来る力を持っているからこそ起こるもので、有難いものなのです」と話されたのを聞いて、疑問でいっぱいでした。しかし、今まで薬を飲んでも良くなり、苦しみの中だったので、この新しい健康法を試してみたいと思い、過去のすべての治療法をやめ、子どもと一緒に浄霊を試してみようと思えました。

私も子どもたちも、最初の一年間は、以前のように病気に罹ることがありましたが、浄霊をしつかり受けるうちに、病気の頻度が徐々に減り始めました。そして子ども達の食欲が良くなって、顔色も良くなり、体調も改善していききました。その有り難さに感謝したことは、数え切れない程です。私の人生は、浄霊と出会ったことで一変し、病弱だった三人の子どもを無事に育て上げることが出来ました。また、自分自身が健康になれた。ということも思うと、本当に感謝でしかありません。浄霊に出会う前は、様々な苦しみに囚われ、暗闇の中で人生の方向も見失っていました。そのことを考え

ますと、今こうして満たされた人生を送り、安心して暮らせていることに、感謝は尽きません。

明主様とのご縁があったからこそ、今の幸せがあるのだと思います。この幸せに至る道を、心から皆さんにお勧めしたいと思えます。

明主様、誠に有難うございました。
(台湾・高雄)

ネパール

心臓病

痛みから解放され
幸せな日々：

バナパ支部
シャンタ・スレスタ (74)



私は一九九三年七月、四十二歳の時に胸のあたりに痛みを感じました。気になってすぐに病院に行き検査をする、「心臓病です」と告げられ、薬を服用するようになりました。しかし、心臓の痛みは治まらず、増してくばかりでした。

最初の病院に行っても良くなりなかつたので、違う病院へ行きました

が、心臓の痛みは治りませんでした。むしろ心臓病以外に病気が増えてしまい、夜眠ることも出来なくなっていました。そのため睡眠薬を多く服用していました。

そんな生活が二年程続いたある日、知り合いの方が「長い間病気で困っているなら新健康協会に行つて浄霊を受けてみたら」と教えてくれました。私は、どんな方法でも良いから、この状況から抜け出したいと思っていました。

薬もいらなくなつた：

私はすぐにバナパ支部へ行き、浄霊を受けることにしました。すると驚いたことに、数回の浄霊で今まで苦しんでいた心臓の痛みが和らいだのです。これは何か違うと感じ、その後も浄霊を続けました。

おかげ様で一週間もしないうちに、心臓の痛みは良くなり、痛みの恐怖から解放されました。私はとても嬉しく、心から感謝しました。

心臓の痛みが良くなってからも浄霊を続けていきましたら、他の病気も徐々に良くなっていき、以前は睡眠薬なしでは眠れなかったのに、薬も飲まずにぐっすり眠ることが出来るようになりました。本当に気持ちよかったです。

私は明主様と浄霊に感謝すると共に、この浄霊を一人でも多くの方に伝えていきたいと思い、一九九六年一月十九日、四十五歳で入会しました。それから今日まで、どんなことがあっても浄霊を続けています。おかげ様で何事も問題なく、幸せな日々を過ごすことが出来ています。

明主様に心より感謝申し上げます。
(ネパール・バナパ)

自然農法

自然農法体験談



札幌支部
よこやまひろあき
横山泰明 (70)

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てること、自然力を生かす農法です。た時間が短い場合は、時間がかかりました。色々試した結果、客土や土を温める為の植物性堆肥やさつま芋の作付けなどで、次の年から驚くほど変わってくれました。また肥料分が無くなったからは、虫はモンシロチョウ位なので、農薬を使う必要もありませんでした。

私は東京で就職した後、札幌に戻ってきたのが昭和五十九年でした。ちょうど家業の変革期と重なり、ここが出发点だったと思います。家業として農業をする事は出来ませんでした。家業は順調に安定し、心の中には新健康協会ですんだ自然農法が育って行きました。この両輪で、それから二十六年後の平成二十二年に耕作放棄地を半分購入して開墾して、二年間の営農の後、平成二十四年に農業者として認めて頂き、残りの半分の農地を購入出来ました。

◇ 自然農法は肥料無し、農薬無し、愛情多しの農法です。初めて自分の畑で自然農法に挑戦しましたが、長い間耕作されている畑ほど、順調に肥料分が抜けて行きました。短ければ二年目から、長くても五年目位から順調に作物が育つたと記憶しています。

最初は虫に一杯食べられて病気にもかかりましたが、それが良かったと思います。沢山肥毒(肥料分など)が抜けて、自然農法の畑になっ

た時間が短い場合は、時間がかかりました。色々試した結果、客土や土を温める為の植物性堆肥やさつま芋の作付けなどで、次の年から驚くほど変わってくれました。また肥料分が無くなったからは、虫はモンシロチョウ位なので、農薬を使う必要もありませんでした。

自然農法は前述のように土の肥毒(肥料分など)を抜くと同時に、種の肥毒も抜いて行きます。土には肥料分が無くなって行きますから、種は肥料の力ではなく、自分自身の力で成長して行きます。種を自家採種で世代交代していくと、力強く種の力で生きる特性が際立って行きます。収量も徐々に上がって行きました。肥料も無い、農薬も無い環境が、美味しく、安全で、体の毒素を抜く作物になって行くと思います。

作物は耕作者の愛情と感謝の気持ちに敏感です。作物に対して丁寧な気持ちで気に掛けると驚くほど立派な収穫が出来ました。言葉も大事です。良い言葉、感謝の言葉を使うように心がけました。間違つて悪い言葉を発した時は、すぐにゴメンナサイと謝りました。

自然農法の作物は皆様の元気の源になる可能性が沢山あります。もし自然農法の作物が皆様のお手元に届いたら、御縁を頂いたと思つて、その出会いを大切にしていきたいと思つていきます。力を合わせて一緒に元気になつて行きましよう。ありがとうございました。

美の世界

美によつて人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

古賀春江 《池畔の風景》

大正・昭和初期に活躍した画家、古賀春江は一八九五(明治二十八)年、久留米市の善福寺に生まれました。工場や潜水艦といった機械めいたもの、飛行船、天を指す水着姿の女性などをカラージュしたような《海》が彼の代表作として知られている通り、次々と西洋の新傾向の様式を取り入れたことで注目された面は大きいといえます。しかし、目まぐるしく様式を変化させながらも、古賀の作品には通底して情緒的な雰囲気認められます。それは本人が意図したものではないかもしれませんが、晩年親交のあった川端康成はそれを「仏法のおきな歌」と評しました。

本作は、水彩で描かれた池畔の風景ということで、木々の茂みの間から水をたたえた池がのぞいています。手前には描かれているのは紅葉した櫛の木のようなです。タッチから推測するに一九二〇(大正九)〜一九三三(大正十二)年頃のものと考えられます。

中学を中退し、十七歳で絵を志して上京していた古賀ですが、病弱だったこともあり頻りに帰省して行きました。年譜を見ると、この作品が描かれたと思われる時期には東京にいる期間のほうが短く、櫛が色づく秋は九州で過ごしています。つまり本作の風景は、久留米やその周辺の筑後地方のどこかである可能性が高いものなのです。

水彩画は油彩より先に取り組んでいたもので、地元にはいた頃からキャリアの初期にあたる一九二〇年代初頭までにたくさん制作しています。油彩を描くようになってから本画は少なくなりますが、スケッチや小作品として生涯描き続け

ていました。「絵は或感慨を表す象徴だから説明や抒述の心を持たないものだ」という絵画観を持っていた古賀にとって、墨絵に通じる軽やかさと象徴性をもつ水彩は大事な表現技法だったので。「水彩は長篇小説ではなくて詩歌だ。その心算で見たい欲しい。水彩はその稟性により、自由に柔らかに而して淋しいセンチメンタルな情調の象徴詩だ。そのつもりで見たい欲しい」とも述べています。

青木繁が晩年の歌に詠んでいるように、櫛の紅葉は筑後を象徴する植栽です。故郷の光景を見た時の胸に迫る感慨が、そのまま絵に表れている作品なのではないでしょうか。

解説 松田愛子



清明会館 「山の景」展

期間…令和6年10月1日(火)〜令和7年5月13日(火)

※清明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535